

ミュージアム 通信

夢で逢えたら

～一年の計は元旦にあり～

[企業史展のご案内]

企業史展「愛せよコスメ!

～message from KISS ME～」開催

[かわら版]

館藏品・期間限定公開のご案内

[新商品のご案内]

小町紅『板紅』宿り木

小町紅『手毬』幸梅

「見立福人子寶富根」一陽斎豊国 画・
東京都立中央図書館特別文庫室所蔵
宝船を絵兄弟にした見立絵



夢で逢えたら ～一年の計は元旦にあり～

いつ見る夢が初夢か

「二富士二鷹三なすび」
ご存知、江戸時代から初夢
に見ると縁起がいいとされ
るものの順である。初夢と
は、江戸時代は大晦日から
三日の夜までに初めて見た
夢のことを指していた。そ
れが最近では、大晦日に寝
ずに新年を迎えたり、三日
から仕事始めの人もいるの
で、二日の夜に見た夢を初
夢とすることが多いようであ
る。しかし、初夢は元々
「大晦日から三日の夜までに
見た夢」という寛容な決
まりだったのだから、今も
必ず二日の夜に見なければ
ならないというわけではな
いだろう。年が明けて初めて
見た夢、それが初夢である。

夢に願いを込めて

正月に吉夢を望む風習
は室町時代に入ってから
のことであるが、見た夢
によって吉凶禍福を判
断する夢占いという風習
は古くからある。文献史
料では、『日本書紀』崇神

天皇四八年正月の条に、二皇子のどちらに皇位を継が

せるか、二人が見た夢の内容を占って決めたとある記述がもつとも古いとされる。

しかし、室町時代までは不思議な夢を見たときに、それを予言だと思いうくらいでしかなかったが、江戸時代になると、あらかじめ縁起のいいとされる夢を決め、自分の都合に合わせて幸せになれる夢が見られるよう願いを込めるようになった。何事も思い込みが肝心である。こうして正月の初夢は「富士鷹三なすび」といつて、これらを夢に見ると縁起がいいと決められた。

選ばれし縁起物

この三つは、天下人にま

でなった徳川家康の幸運にあやかろうと家康の住んでいた駿河の名物や名産品をあけて詠まれた言葉だといわれている。なぜこの三つが選ばれたのか

には諸説あるが、駿河の国の高いものとして富士山、愛鷹山、そして初茄子の価格をあげたという説、富士が「不死」「無事」に通じ、鷹は「多嘉」の同音、なすびは「成す実」の音便として五穀成就・子孫繁栄の意味だとも伝えられている。

紅ミュージアム通信



妻恋神社の「七福神の乗合宝船」・当館所蔵



←内藤町遺跡出土の鉄製須絵「富士鷹三鷹三なすび」文の石皿（口径二一四mm、器高二九mm、底径一一五mm）が出土している。トリ三とは内藤新宿にあった料理屋の屋号で、この石皿の他にも

界隈にあった店の屋号を釘書きされた「一富士二鷹三なすび」文の石皿（口径二一四mm、器高二九mm、底径一一五mm）が出土している。トリ三とは内藤新宿にあった料理屋の屋号で、この石皿の他にも

界隈にあった店の屋号を釘書きされた食器類が多数出土した。このいかにも料理屋らしい文様に、江戸時代を通して宿場町として栄えた内藤新宿の賑わいが垣間見える。

ところで、「一富士二鷹三なすび」には続きがあり、「四扇五煙草六座頭」と続く。扇は末広がり、煙

草は上へと昇るもの、座頭は毛がない（怪れない）ということで縁起がいいのだとか。ちなみに、一三と四一六はそれぞれ対応しており、富士山と扇は末広がりで子孫繁栄・商売繁盛、鷹と煙草の煙は高く舞い上がるので運氣上昇、茄子と座頭は毛がないから「怪我なし」で家内安全を願っている。

夢といえはの動物

初夢の起源は中国の思想に由来している。中国から伝わった伝説上の生き物に狼がいるが、狼は人の夢を喰らって生きるといわれている。中国では悪しき夢を払う狼の絵を枕の下に敷いて寝る習慣があった。この習俗が日本に伝わり、狼の絵や文字は縁起物として貴族から庶民にまで広まっていったという。

吉夢を見るため宝船の絵を枕の下にし、のびせる夢枕は、室町時代かららしいが、浮世絵が隆盛した江

戸時代になると、多色刷りで図柄もますます縁起のいい絵が取り入れられるようになる。宝船には七福神が乗り、帆の真ん中は「寶」と染めぬかれた「七福神の乗合宝船」の錦絵である。年末には、初夢に備えて宝船売りが江戸の町で絵を売り歩く姿が随所で見られた。



→大名の奥方と若君の鷹狩りの道中といった趣向で「富士鷹三なすび」が描かれている。「見立初夢」鳥居清長画・山口県立萩美術館・浦上記念館所蔵



妻恋神社の「福寿鶴亀」・当館所蔵

めでたき初夢を見るために

さて、江戸の頃になると、望みの吉夢を見るには宝船だけを枕下に敷くだけでは手ぬるいようである。宝船の絵とともに、同じくめでたい鶴亀の絵を枕下に敷いて寝れば「一富士二鷹三なすび」のいずれかの吉夢が見られると信じられた。

(一六五八〜一六六一)にこれらの絵の意匠創案をし、夢枕の版画を売り出していた。昭和五二年(一九七七)に、それまで焼失されたと思っていた版木が発見され、現在も復元した夢枕を妻恋神社で入手することができている。

来年の正月に縁起のいい初夢が見たかつたら、妻恋神社で夢枕を求めるとよいし、妻恋神社まで足を運べない場合は、このミュージアム通信を枕下に敷いておやすみになってみても、いくらか効果があるかもしれない。

■ 企業史展のご案内

「愛せよコスメ! ~message from KISS ME~」 キスミー化粧品一挙大公開

■ 2014年1月25日(土)~3月30日(日)開催 ■ 観覧料: 無料



日本には創業百二百年を越える長寿企業が多数存在します。その長い年月のなかで各企業が世に送り出してきた製品は、日本の産業技術を語る上で欠かせない重要な歴史資料です。パッケージや広告物、販促ツール、キャンペーン活動など、製品にまつわるすべてが企業の保有する歴史であり財産なのです。近年、こうした資料を通じて企業文化の多様性を伝える展覧会が増えています。

江戸時代には創業百として創業した伊勢半は、近代になると欧米のリップステイツクタイプ、口紅開発に着手し、戦後は総合化粧品メーカーとして飛躍的な成長を遂げます。とくに口紅に関しては、紅屋ならではの強いこだわりと確かな技術をもって、次々と新製品を発表しました。その成長を支えたブランドのひとつが「キスミー」です。本展では、戦後から今日までの「キスミー」化粧品の様々を、当時の流行ファッションやメイクの変遷と

はこのほど、創業一八九年の化粧品メーカーである株式会社伊勢半の歩みを、同じ社が生んだコスメブランド「キスミー」に焦点をあてて展覧します。

「キスミー」が映し出すのは、伊勢半の歩みだけに留りませんと。そこにはきっとお客様と伊勢半をたぐくむ大切なお客様と伊勢半をたぐくむ大切なお客様と伊勢半をたぐくむ大切なお客様と伊勢半をたぐくむ大切な時間、思い出があることでしょう。

【併催企画】講演会

「お歯黒からきやりーぱみゅぱみゅまで~近現代日本のメイクアップ流行史」
明治時代、西洋化粧の模倣から始まった日本の近代メイクアップ。日本女性の顔はどう変わり、どう変わらなかったのか。明治から平成までのメイクアップの変遷を縦軸に、女性の生き方と流行メイクとの関連を解き明かします。

講師: 山本 桂子氏(美容ジャーナリスト)

2014年2月1日(土) 14:00~15:30 ■ 定員: 20名(要予約) ■ 聴講料: 無料

※お問合せ・お申込みは紅ミュージアム(03-5467-3735)まで

お客様の声から生まれた新商品

小町紅『板紅』宿り木

2013年12月2日(月)～数量限定発売

伊勢半本店は、二〇一三年十二月二日(月)より、携帯に便利な鏡付き紅パレット「小町紅『板紅』宿り木」を数量限定で発売いたします。

お猪口形の小町紅をご愛用いただいているお客様の声から生まれた本商品。江戸時代の女性が懐中に板紅を携えて外出したように、ポーチやバッグに入れて紅を持ち歩きたい。そんなリクエストにお応えしました。

モチーフに採用した宿り木は、日本においては万葉集の時代から長寿を意味する祝賀アイテムであり、また欧米では恋愛成就のシンボルとされてきました。そして左右対称のデザインは、抱き紋の持つ子孫繁栄の意味に通じるよ

うにと願いを込めたもの。表面のメッキは24金と純銀を使用し、宿り木の実の部分には珊瑚や天然石をあしらいました。さらに、長くご愛用いただけるよう入替用のリフィルもご用意しました。

なお、十二月三日(火)～二十七日(金)の期間中、紅ミュージアムにて本商品をご購入の方にささやかなプレゼントを用意しています。幸福のメッセージにあふれた宿り木を手に、紅を点す。それは至福の一瞬です。

な



■小町紅『板紅』宿り木(金)・(銀)／各18,900円
■サイズ:約43×40×12mm ■リフィル6,300円
*各色100個ずつの限定商品です。

Information

かわら版

期間限定公開中! 「東都本町式丁目ノ景」

2013年11月12日(火)～2014年1月15日(水)


現在紅ミュージアムでは、館藏品「東都本町式丁目ノ景」(国輝 画)を公開中。上記期間限定の公開資料となりますのでお見逃しなく。

※このほか、通常時は資料保護のため複製品展示となっている「今様美人拾二景」(英泉 画)・「名筆浮世絵鑑」(国貞 画)の実物もご覧いただけます。



新商品のご案内

伊勢半本店では、2014年2月1日より「小町紅『手毬』」期間限定柄3種(各9,450円)を発売いたします。今回の新柄は吉祥の象徴でもある梅を配した「幸梅(さちうめ)」。愛らしい配色とデザインは、春に向けて新たな門出を祝う贈り物に最適の一品です。



Since 1825
伊勢半本店 紅 ミュージアム

●開館時間／11:00～19:00 ●休館日／毎週月曜日
(月曜日が祝日または振替休日の場合は、翌日が休館日となります)

東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビル1F
TEL&FAX:03-5467-3735

東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」下車
B1出口より徒歩12分

<http://www.isehanhonten.co.jp>